

掲示板のことば

痛みを知る

ただ

一人であれ

「シン・ウルトラマン」より
米津玄師 「M八七」

2022. 07

この言葉は、映画「シン・ウルトラマン」の主題歌「M八七」の歌詞にあります。映画を観ると、この歌詞が心に響きます。米津さんってすごいですね。

ウルトラマンは、怪獣と戦ってくれて、人間を守ってくれます。でも、ウルトラマンの表情は、無表情というか、感情がよくわからないですよ。

僕は、米津さんのこの歌詞は、ウルトラマンを表していると思うのです。

どういうことかといいますと、ここからはネタバレを含みますが、ウルトラマンは人間になるのですね。戦いが終わりウルトラの星に帰れば、そのままウルトラマンとして生き続けていられるのに、あえて、寿命のある人間になるのです。

人間を守り、人間を救う、それで帰ってしまうのではなく、人間と同じように傷つけられる存在になり、その人間を知ろうとするのです。

僕は、阿弥陀如来のことを思いました。阿弥陀如来は、僕たち人間を救う仏さまです。どのように救うかということ、煩惱を抱え、罪を背負った人間になって救うのです。明治から昭和を生きた真宗の僧侶、曾我量深はこう言います。

如来は我なり。如来我となりて我を救い給う。

遠く離れたところから救うのではなく、悩み、迷い多きこの人間となって、その人間を救うということです。この、人間になるということを回向ということです。

救う存在が、救われる存在の痛みを知るただ一人となる、ウルトラマンをそのように表現されると、光の国からやってきた光の戦士が近くに感じられます。

真宗大谷派 光明寺住職 小林尚樹